

# A proposal for the nursing care of diabetics focusing on their perception of fonnd therapy

|       |                                                                                                             |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: eng<br>出版者:<br>公開日: 2017-10-06<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: Watanabe, Akiko<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/2297/19524">http://hdl.handle.net/2297/19524</a>                             |

平成 20 年 8 月 25 日

## 博士論文審査結果報告書

報告番号 医博甲第 1989 号

学籍番号

氏 名 渡邊 亜紀子

### 論文審査員

主 査 (教授) 稲垣 美智子

副 査 (教授) 泉 キヨ子

副 査 (教授) 坂井 明美



論文題名 A proposal for the nursing care of diabetics focusing on their perception of food therapy

### 論文審査結果

本論文は、質的アプローチ（グラウンドセオリー）と量的アプローチ（共分散分析）のミックス法を用い、糖尿病食事療法を継続する患者の認識および認識の因果関係を明らかにし、長期間にわたる糖尿病患者教育における食事指導の方向性を示した。

質的アプローチでは糖尿病患者の食事療法に対する認識を見出し、経時的に変化することを明らかにし構造化した。量的アプローチでは、質的アプローチの結果を基に仮説モデルを作成し、糖尿病患者の食事療法に対する認識の因果関係について明らかにした。仮説モデルでは、12 のサブカテゴリーから「規範」「葛藤の自覚」「有能感の取得」「統合」のカテゴリー生成、そして発展していくことが説明可能であることを見出した。また量的アプローチでは、仮説モデルの適合度  $GFI = 0.813$ ,  $AGFI = 0.813$ ,  $CHI = 0.582$ ,  $RMSEA = 0.007$  と妥当であることが示された。

本論文の独創性および保健学における意義は次のとおりである。第1に、糖尿病患者の自己管理行動の動機づけに関する研究は数多く報告されているものの、自己管理行動で最も困難とされる糖尿病患者の食事療法の継続に関する研究は報告されていなかった。本結果は、これまで一律に考えられていた食事指導に新たな方向をしめした。第2に、本論文の中心概念となる認識は、糖尿病患者の食事療法を実施した体験やそこから生じる欲求や要望など感情を含むものであるが、それらの糖尿病患者の自己管理行動への影響及ぼし方は漠然と捉えられていた。本結果では質的・量的アプローチから整理・検討し、論理的に説明が可能となり、理論構築の基本となる。糖尿病患者教育・看護において極めて重要な結果といえる。

したがって、本論文は博士論文としてふさわしく博士（保健学）を授与するに値すると評価した。